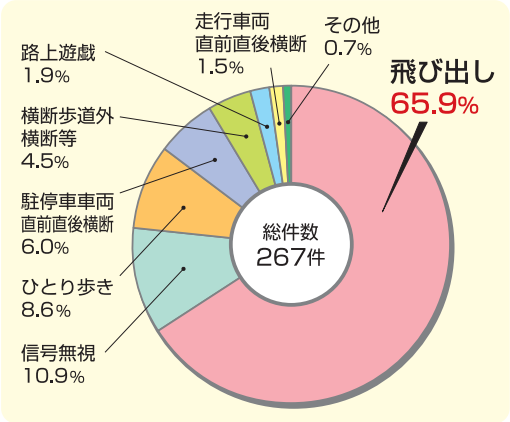
歩行中の子供の交通事故原因の約７割は「飛び出し」

外出時は、子供から目を離さない。

子供の交通事故は、自宅から50m以内で、午後2時から6時の時間帯に多発しています。これは、保護者が忙しい時間帯のため子供から目が離れがちになることや、まわりが薄暗くなり、ドライバーにとっても見えにくくなることなどが原因と考えられます。
子供は何かに夢中になると、まわりのことに注意が向かなくなる傾向があります。
外出時には、子供の手首を持つなど、子供が急に走り出さないように注意をしましょう。

歩行中の子供の原因別事故件数（6歳以下の子供）



平成25年中（公財）交通事故総合分析センター資料を参考に作成

自転車に乗せるときは「ヘルメット」を着用

死傷者の約6割は頭や顔部に損傷。

子供は、体に比して頭が大きいため転倒しやすく、頭や顔に損傷を受けやすくなります。
子供が自転車に乗るときや、同乗させるときには、ヘルメットを必ずかぶらせるようにしましょう。

2人の子供を乗せるときは「幼児2人同乗用自転車」を使用しましょう。

運転者のための乗車装置及び幼児用座席2つを設けるために特別な構造、装置を有した自転車を幼児2人同乗用自転車といいます。
こうした自転車を使用する際には、BAA（右図）または、SGといった安全性を示す基準適合マークの付いたものを選ぶようにしましょう。

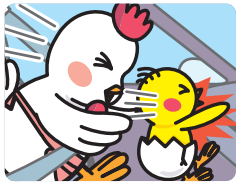
『自転車の車体の安全性を示すマーク』
自転車は次のマークがあるものを使いましょう。

TSマーク　JISマーク　BAAマーク　SGマーク

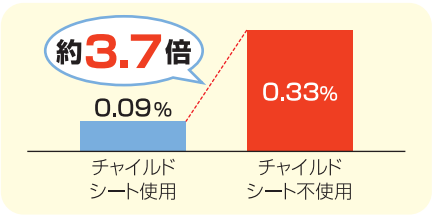
チャイルドシートは確実に取付け、正しく使用

不使用で致死率が約3.7倍。

義務付けられている6歳未満のチャイルドシートの使用率は61.9%（平成26年4月警察庁、JAF調べ）でした。
幼児の命を守るため必ずチャイルドシートを使用しましょう。



幼児の自動車同乗中のチャイルドシート使用有無別致死率



警察庁交通局　平成25年中の交通事故の発生状況

正しく座席に取付けられていますか？

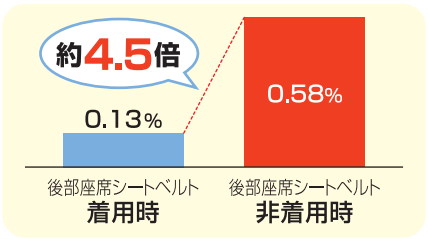
前述の調査によると、幼児用チャイルドシートを使用していても、チャイルドシートがぐらつくなど、約6割が正しく取付けられていませんでした。
安全のために、身長・体重にあったチャイルドシートを選び、取扱説明書をよく読み、正しく取付けましょう。

後部座席もシートベルト着用が義務

後部座席シートベルト非着用時の致死率は、着用時の約4.5倍。

シートベルトをしていないと、事故の際、乗員が車のガラスを突き破り、車外に放り出され路面に身体を強打したり、後続車両などにひかれたりすることがあります。

後部座席シートベルト着用有無別の致死率



警察庁交通局　平成25年中の交通事故の発生状況

交通ルールを守ってつながる笑顔

交通ルール遵守のためのロゴマーク

このロゴマークは、人と擬人化した車を親しみやすく表現し、「交通ルール遵守」を訴求しています。一人ひとりが交通ルールを守ることで、交通事故のない安全で安心な社会を実現し、みんなの笑顔がつながります。